

第281回サロン9条例会（2016・10・4）

緊急上映 藤本・影山共同監督「高江 ―― 森が泣いている」（DVD）

NHK スペシャル「沖縄空白の一年（1945～1946）収容所から始まった戦後」

今、沖縄・高江で起こっていることをリアルに知り、早急にまわりに広げようと緊急上映会が計画された。肝心のDVD到着が遅れ、その前に参加者Iさん提供による「沖縄空白の一年」（NHKスペシャル8/20放映）を見ることとなった。参加者15名（2名初）

当時の体験者の証言とアメリカで発見された資料によって解き明かされたドキュメント。終戦前後、滑走路を作るための土地を確保するために収容所に入れられた読谷村の村民。戦後、米駐留軍の中で、本国の沖縄をめぐる対立が持ち込まれ、統合参謀本部に近いマッカーサー率いる陸軍と、国務省に近い海軍とで、権力の二重構造があった。当初、本土に先駆けて女性参政権が誕生したり、独立を模索したりと民主化へ向かうかにみえた沖縄も米陸軍参謀によって下された命令「沖縄の統治を海軍から陸軍参謀に移す」により、ソ連や中国に対抗するための拠点基地化がすすめられた。収容所から解放されても家も畑も失った住民を基地内の労働力・軍作業に利用。田畑豊かな宜野湾市は普天間基地に変えられてしまった。本土は戦後復興にまい進。そんな中でマッカーサーは本土に疎開していた沖縄人を本土から引き揚げさせた。極貧の沖縄人の存在は日本の効率よい民主化のためには邪魔であると考えたという。「日本人はアメリカ軍の沖縄駐留に反対しない。なぜなら沖縄は日本ではないのだから」とマッカーサーは本国の陸軍高官に宛てた文書に書いている。日本高度成長のなか、沖縄との落差がどんどん開いていった。

沖縄が基地の島にされていった歴史がよく描かれていた。

次に「高江 ―― 森が泣いている」を見た。緊急上映への訴えが書かれたチラシの文を転記してその内容の紹介とする。

―― 辺野古と高江と普天間は、ひと続きのものだ。普天間基地に配備されたオスプレイは、高江で訓練する。新基地ができれば、辺野古から飛び立ち、高江で訓練をする。すべては、次の戦争のための準備だ。

7月10日の参議院選挙の翌朝、数百名の機動隊に守られて、工所用資材の搬入が始まった。7月22日早朝から、警察・機動隊が県道を10時間にわたり封鎖。機動隊の壁を作り、市民と車両を力づくで排除。抗議行動の拠点となっていたテントを破壊した。沖縄県警、東京の警視庁、千葉県警、神奈川県警、愛知県警、大阪府警、福岡県警・・・全国から動員された500名の機動隊による激しい暴力、この日、3人が救急搬送された。高江は今、戒厳令状態だ。留まり続ける数百名の機動隊による排除が繰り返され、県道を封鎖し、毎日、トラック10台分の砂利が運び込まれている。工事を少しでも遅らせようと、市民の阻止行動も続いている。――

圧倒的な数の権力側と住民の攻防は胸が締め付けられた。でも目をそむけてはならない、と強く思った。 (A.Z 記)

